

少子化の急速な進行と 高等教育のあり方

中央教育審議会大学分科会
高等教育の在り方に関する特別部会（第4回）
2024年3月27日

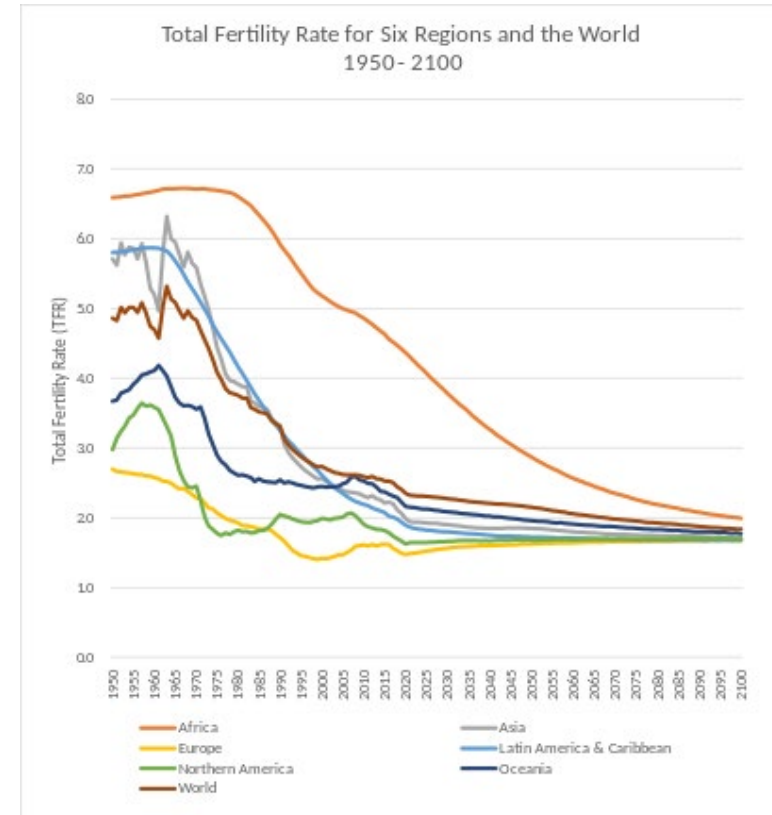
両角亜希子（東京大学）

急速な少子（高齡）化

- 日本だけでなく、世界全体で進む



(出典) 世界の人口 80億人突破へ インドやアフリカなどで増加が顕著に
2022年11月15日 NHKニュース

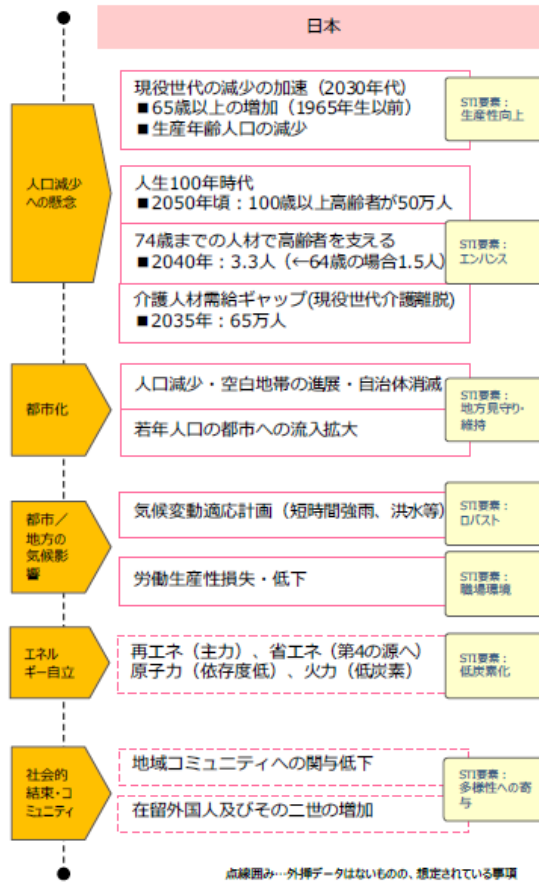


https://en.wikipedia.org/wiki/Total_fertility_rate

- 少子化への対応という文脈を超えて、**どういう社会になるか**、ということから考えるべき
 - これまでの社会インフラ自体が成立し得なくなる

より複雑な社会問題に直面していく

既存予測調査等で示されたメガトレンドを踏まえ、世界と日本に共通する課題を示す。
 ※日本の項目：外挿データ等で示された将来事項



基本的前提

少子化・生産年齢人口減少
 グローバル、ローカルな社会問題の
 解決が求められる



社会の知の総和は高める必要



大学が担うべき役割は大きい

(出典) 未来工学研究所 (2020) 図46「2030年頃における世界と日本のメガトレンド(社会課題マップ)」
https://www.ifeng.or.jp/wp/wp-content/uploads/2023/11/sti_03_03.pdf

日本の大学の現状はどうか

- 国際比較の視点を中心に
- 18-22歳の伝統的學生が多く、社会人學生や留學生が少ない
- 人口当たりの修士・博士卒が低い
- 低コスト(授業料が安い・経済支援も多くない)
 - GDPに占める公財政教育支出の割合 低いまま維持
- 大学教育の質向上政策
 - 政策も大学も力を入れてきたが、社会からその成果がわかりにくい
 - 透明性(Transparency)、だれもがわかる内容で提示の点で課題
- 教員も職員も非常勤・非正規が増加 - 内部管理も複雑化
- 研究志向の偏り
 - ボーア型(純粹基礎研究)、エジソン型(純粹応用研究)に比して、パスツール型(実用志向の基礎研究)が弱い傾向(福井2020)
- 大人の学力は高い(OECD・PIACC調査)

	質	アクセス	規模
政策	20年近く政策の中心課題 教学マネジメント指針等	<ul style="list-style-type: none"> 近年、地方分散の政策は(一時的なもの以外)はほぼない 2020年～ 就学支援新制度 	設置認可・補助金ルール等で間接的に“適正化”を促してきた
帰結	大学の改革努力は進んだ 教員の評価は割れている 学生や社会は?	一部改善しているが、進学格差の問題は解消していない	小規模校(地方に多い)がますます小規模化し改革しづらく、二極分化が進む。

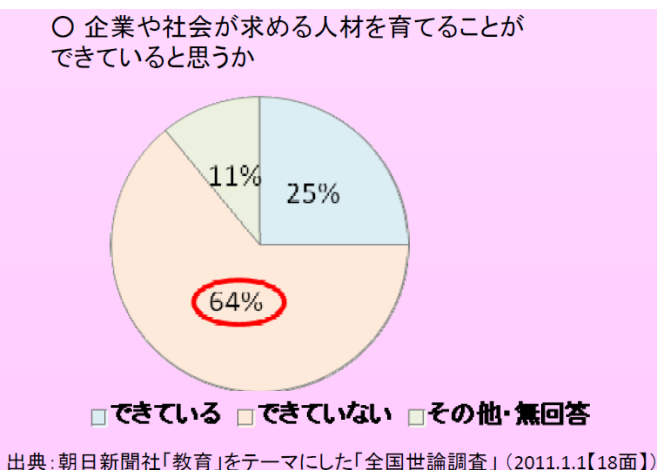
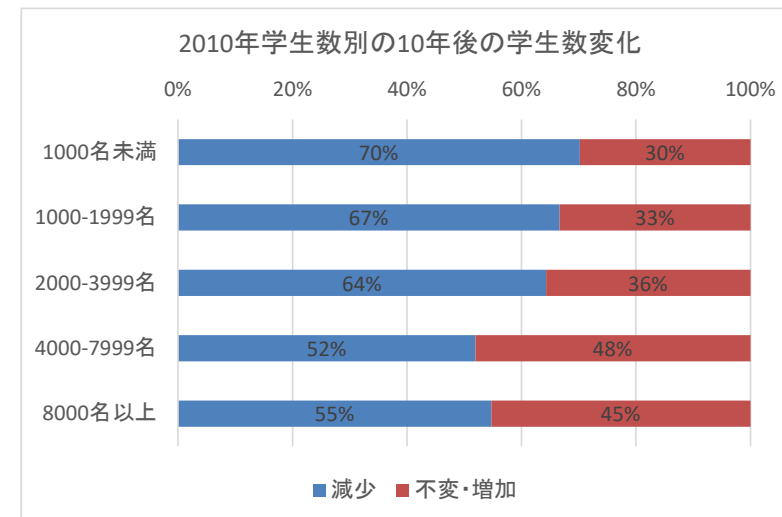
		現場の教育改善進んだ		
		評価せず	評価	合計
教学マネジメント指針	知らない	32%	22%	54%
	知っている	20%	26%	46%
	合計	52%	48%	100%

(出典) 両角2023、学部長以外の教員の回答

住民税非課税世帯の進学率(※1)
R5 69%(H30 推計40%)
(参考 全世帯 84%)

大学(学部) 進学率			
	2007年	2022年	上昇幅
東京	69	77	8
京都	60	71	11
岩手	31	40	9
鹿児島	31	42	11

(出典) 文科省資料より作成
<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/content/000255573.pdf>



全国大学生調査(第3回試行調査)(※2)の回答
「大学での学びによって自分自身の成長を実感している」82%
社会からの評価は変わっているのか?

韓国の経験から

- 規模削減と質をリンクさせ、アクセスの問題が深刻化し、対応
 - 18歳人口減→留学生や社会人の増加を目指す、十分な効果なし→統廃合・定員削減・不良大学退出。「質の評価等をもとに規模を削減」した結果、「アクセス」の問題、とくに地方との格差がさらに拡大。現在の尹政権で、大学の運営・設置に関する権限と予算の一部を地方に委譲するRISE (Regional Innovation System & Education) 政策を始動。画一的大学支援から自治体主導の地域に合わせた大学支援へ（可能性と課題の両面がある）

		盧政権 (2003-08)	李政権 (2008-13)	朴政権 (2013-18)	文政権 (2018-21)
定員削減政策の特徴		国公立の定員削減・統廃合	財政支援や学資金融資の制限とリンク	大学評価とリンク、A評価以外は定員削減	定員削減を市場に委ねた
入学定員の削減規模	首都圏	10489	7761	14205	2646
	地方	60645	28453	46830	9645
	全体	71134	36214	61035	12291

日本の高等教育政策

- 資源的裏付けが不十分な教育の質的転換政策に注力
 - 改革の小道具、関係者の努力、進むマイクロコントロール化
- 機関補助は伸び悩むが、修学支援新制度など個人補助の形での高等教育全体への資金投入は急速に増加→高等教育の質に対する社会の目はより厳しくなるはず。
 - 世界の多くの国で進展している高等教育の政治化と大学への信頼の低下
 - その背景は複雑だが、高コストな授業料(やローン)という投資に見合った効果を感じないという社会の認識が背景にある [Douglass\(2021\)](#)
- しかし、大学側のインセンティブは、機関補助の影響が大きく、十分に社会に目が向いていない。個人補助のような形で増えると(多子世帯、理工系等)、増加した高等教育投資の獲得努力が難しい面も。
 - (例)なぜ18歳以外に目が向かないのか→既存の制度のインセンティブが強く働きすぎている? (参考) [米国の例 The Chronicle of Higher Education\(2023\)](#)

大学と社会の支援に対する認識のずれ

大学側の認識・見え方

- 機関補助が増えない
- 配分ルールの変更が多く、確実に確保するのも大変
- 努力しているのに苦しい

R6 文部科学省一般会計予算の場合

国立大学運営費交付金 1兆784億円
私学助成 4083億円

社会の認識・見え方

- 大学に税金を使うことへの優先度は低い(矢野他2016)
- “10兆円ファンド”や「修学支援新制度」など、高等教育投資は増えている

10兆円ファンド

(政府出資 2020 5000億、2021 6000億、
財政投融资 2020 4兆、2021 4.9兆)
3%運用 毎年3000億を配分(実際はともかく)

修学支援新制度の予算

(R4 6211億、R5 6314億)

gap

※内閣府計上、子ども家庭庁計上分含む

何が必要か



① 教育の質の担保とその見える化

- マイクロコントロールでなく（自律性）、実質的な質保証。透明でわかりやすく示す



② 社会との直接の接点の充実

- 各地域・世界レベルで難しい社会課題 大学と社会が組むしかない
- 社会人≒総合的な問題解決を志向
 - 潜在ニーズを開拓しプログラム化（先進事例の検討：両角2024）
- 社会との接点が増えれば、教育研究の志向性も変わっていくはず。そうすれば社会からの目も変わるはず。そういう好循環を生み出すインセンティブを設計すべき。



③ 安定的で明確な支援枠組み

- 国公立のいずれにおいても国からの支援も枠組みが複雑で頻繁に変わる。競争的資金も長期的な見通しができない。不安定でわかりにくい。
- 修学支援新制度についても資金は大きく投入され、支援が広がったこと自体は評価できるものの、その支援対象の考え方など、高等教育政策との整合性の点で課題があり、そこも含めて総合的に議論すべき。

引用文献

- 未来工学研究所2020『第5期科学技術基本計画のレビュー及び次期科学技術基本計画の策定に関する調査・分析等の委託』
- 矢野眞和、小川和孝、濱中淳子2016『教育劣位社会—教育費をめぐる世論の社会学』岩波書店
- 福井文威2020「研究のマネジメント」小方直幸編著『大学マネジメント論』放送大学教育振興会
- 尹敬勲2023「韓国の大学構造改革—定員の適正規模化計画を中心に」東京大学 大学経営・政策研究センター主催オンラインセミナー「18歳人口急減と大学政策—韓国の事例から—」(2023年11月2日)
- 両角亜希子2023「教学マネジメント政策の教員へのインパクト」公益財団法人大学基準協会 大学評価研究所、教学マネジメントに関する調査研究部会『教学マネジメントに関する調査研究報告書～大学の現場の実態分析と教員・学生に届く実質化の提言～』
- 両角亜希子編2024『大学のリカレント教育—先進事例からみた展望と課題』（高等教育研究叢書173）広島大学高等教育研究開発センター
- 文部科学省「令和5年度予算(案)のポイント」「令和6年度予算(案)のポイント」等
- John Aubrey Douglass(2021) *Neo-nationalism and Universities: Populists, Autocrats, and the Future of Higher Education*, Johns Hopkins University Press
- The Chronicle of Higher Education(2023) *Serving Nontraditional Students—Strategies for a changing enrollment pool*